

陸連時報 三

2021
令和3年

3 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

| | |
|---|-----|
| 2021年の取り組み(専務理事 尾縣 貢)..... | 166 |
| 第223回ワールドアスレティックス(WA)カOUNシル会議報告(会長 横川 浩)..... | 167 |
| 全国普及育成・指導者養成担当者会議 報告(日本陸連指導者養成委員会委員長 山本 浩)..... | 168 |
| 第2回ジャパンレースディレクターズミーティング2020..... | 170 |
| 日本陸連アスレティックス・アワード2020 報告..... | 172 |
| 2020数字で見る陸上競技 都道府県別高校生陸上競技部員割合..... | 173 |
| 2020年度全国検定会議 報告(施設用器具委員会)..... | 174 |
| 大会観戦ガイド..... | 175 |
| 陸協NEWS..... | 176 |
| 事務局からのお知らせ..... | 178 |

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2021年の取り組み

専務理事 尾 縣 貢



1年延期の東京オリンピックに臨む

宮城・東松島でギリシアからの聖火を迎え入れた4日後の3月24日に2020東京オリンピック・パラリンピックの1年延期が発表されました。そして、4月7日には東京都をはじめとする7都府県に緊急事態宣言が出され、スポーツ界が暗い闇に包まれていきました。スポーツは、「不要不急」のものと見なされただけではなく、感染を助長する場という辛辣な見方がなされ、アスリートは活動の自粛を余儀なくされました。そればかりか、「オリンピック」や「トレーニング」と言う言葉を口にすることも罪だと思えるほどに追い込まれていきました。

2011年制定のスポーツ基本法は、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」から始まります。しかし、スポーツは人々の心の余裕の上にもみ成立するものであり、まだまだ趣味の領域を脱しないことを無念に思いました。同時にスポーツを「平和に向かう心の拠り所」に昇華させたいと言う気持ちを持った次第です。

そのような苦境の中、陸上競技界ではアスリートの活動の場を創出し、スポーツ（陸上競技）の真価を世にアピールするために、7月には周到な感染対策を講じながら北海道の4市で開催するホクレンディスタンスを決行しました。安全確保第一で競技結果は二の次と思っていましたが、田中希実さん（豊田織機TC）の3000mの日本記録など多くの好記録が誕生し、大いなる盛り上がりを見せました。無事に開催できたことを喜ぶとともに、アスリートの競技に対する強い思い、集中力、そして底力に感服しました。本当に強いアスリートは心の強さに支えられているのです。この逆境に屈しない活躍が多くのアスリートの心を発奮させたのか、続く8月のセイコーゴールデングランプリ陸上や10月の日本選手権大会などの競技会、マラソンや駅伝におけるアスリートの活躍につながったものと思います。

また、それぞれの加盟団体及び協力団体でも本連盟の「陸上競技再開のガイダンス」に基づき、それぞれで工夫した感染対策をとり、多くの競技会を開催していただきました。本連盟が行ったアンケートでは、7月1日から10月4日までに開催された787競技会に10万人近い参加があったこと、それぞれの競技会での感染対策の工夫などが報告され、全国の情報を共有することができました。この場を借りて、大変な状況下で競技会を開催していただいた各陸協をはじめ関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

未だ感染は終息を見ず、東京オリンピック・パラリンピ

クは中止・延期すべきであると言う世論が多勢となっていますが、国民の理解を得ていくためには、アスリートの頑張りによりスポーツの意義を伝えるとともに、それを支える安全な競技会の運営によりオリパラ機運を醸成していくことが必須かと思えます。

東京オリンピック・パラリンピックは、アスリートやコーチのみならず支えてきた者たちの集大成の場でもあります。そこは、多くの関係者の英知や経験を活かすことができる場であり、これらの活動の成果は、オリパラ後に広く陸上競技界、そしてスポーツ界の共有のレガシーとなって残ることでしょう。

オールジャンバン体制で本番に臨んでいくことを改めまして皆様をお願い申し上げます。

ポスト東京オリンピックを考える

東京オリンピック・パラリンピックの後、スポーツ界に追い風が吹くことを期待できる状況ではありません。このパンデミックによって、国内のみならず世界的に経済は打撃を受けており、その影響はスポーツ界にも強く及んでいます。

陸上競技界も未曾有の危機にあると言えますが、敢えて諸々の活動を見直す再出発のための好機と捉えたいと思います。そこで、まずJAAF 2017 VISIONで打ち立てた2本の柱である「競技陸上」と「ウエルネス陸上」をいかに進めていくかを原点に戻って再確認する必要があります。

競技陸上では、「一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして関わり続けること」という理念を大切に、2018年11月に発表した競技者育成指針に沿って、普及・育成・強化のあり方を引き続き見直す必要があります。具体的施策としては、現在進めている小学校、中学校、高校のそれぞれの段階で、発育発達に沿った競技会のあり方を考え、1年を通していかに配置していくか等を引き続き検討していきます。これに加えて、指導者の養成に重点を置き、強化と指導者養成を一対として考える必要があります。これを推進するにあたり、現在、策定中の「指導者養成指針」に基づき、諸々の制度の見直しも求められます。

一方、「ウエルネス陸上」はますます重要度が増すものと考えています。競技団体は、これまで培ったノウハウを国民に還元していくことが求められています。公園では多くの人がジョギングやウォーキングを楽しみ、競技場では子どもから大人までが陸上競技を楽しむことにより、心身の健康増進を促し、健康寿命の延伸に寄与することは究極の姿であると言えます。今一度、日本陸上競技連盟定款に謳われている「陸上競技を通じスポーツ文化の普及及び振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを目的とする」という条文を心に刻みたいと思います。

加盟団体、協力団体、スポンサー各社、陸上ファンの皆様の支えをいただきながら、1年延期となったオリンピックイヤーの活動を展開してまいりますので、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第223回ワールドアスレティックス(WA)カOUNCIL会議 報告

会 長 横 川 浩

第223回ワールドアスレティックス（世界陸連）カOUNCIL会議が2020年12月1日～2日に開催され、カOUNCILメンバーとして出席した。同会議はオンライン形式で開催され、概要は以下の通りである。

第223回ワールドアスレティックスカOUNCIL会議 概要

1. ロシア問題

ルネ・アンデルセン調査団長から、資格停止処分を受けているロシア陸連に関する報告が行われた。資格回復に向けた改革の進展状況が確認され、ロシアのドーピング文化の改善に向けて、一定の進展が見られ、支払い期限が8月15日まで延長されていた罰金等の納付金631万ドルも完済済である事が報告された。今後は、ロシア陸連のイワノフ新会長を筆頭とした再建チームが結成され、新規採用された3名の国際エキスパートと連携して、改革計画の早期実現を目指す。ロシア選手を個人資格のANA選手（中立の立場）として、東京オリンピックを含めた国際大会への参加を認めるかどうかの判断は、2021年3月開催予定のカOUNCIL会議で諮られる。ドーピング文化に対するゼロトレランス方針を推進する中で、組織改革の進捗状況に顕著な改善があった場合には、カOUNCIL会議での審議を早める可能性もある。来年3月1日が期限となっている改革計画策定や諸費用の支払いが遵守されなかった場合には、総会で除名処分を諮る事になる。

2. WA規則の改定

●テクニカルルール第5条

シューズに関するワーキンググループから、開発段階のシューズについて提案が行われた。現規則では、特定のシューズが市場に出ていない場合、底の厚さやブレードの数といった要件を満たしていても、選手は大会でそのシューズを履く事が認められていない。これにより、各メーカーは試作したシューズを選手に現場で試してもらう事が規制される状況が発生している。そこでルール改正を行い、“Development Shoe Policy”を導入する事によって、要件を満たしていれば、市場に出るまでの一定期間は着用を許可するという方針に合意した。但し、オリンピックやWASイベント（WA主催大会）での着用は認められず、又、12か月間の開発段階許可期間の枠組みを設定し、その後は規定通り一般流通する事が必須となる。

●テクニカルルール第6.3.4条

CAS（スポーツ仲裁裁判所）が、ブレーク・リーパー選手の義足に関する裁定の中で、装具のアドバンテージの有無を証明するのは選手ではなくIFにあるという裁定を下したため、規則改定が行われる。

●競技規則第31.3.5条

世界記録の公認プロセスの中で、ドーピング検査に関する要件が不明瞭であったため、改定を行い、ESA（赤血球新生刺激物質）分析を含むドーピング検査の実施、報告義務について明確化された。

3. コンペティション

●世界クロスカントリー選手権（オーストラリア・バサースト）

2021年3月20日に予定されていたが、約1年延期して、2022年2月19日に開催する事とした。

●世界室内陸上競技選手権大会（セルビア・ベオグラード）

2022年3月11日～13日に予定されていたが、1週間遅らせて、

2022年3月18日～20日に延期する事とした。

●2022年世界チーム競歩選手権（ベラルーシ・ミンスク）

同国での大会の開催については、リスクアセスメントを行う必要がある事が確認され、2021年3月のカOUNCIL会議にて同国での開催或いは開催場所の変更を協議する。

●U20世界選手権大会（ケニア・ナイロビ）の大会要項の承認

延期後も、U20という大会の参加年齢要件は変更せず、2021年12月末時点の18歳と19歳に参加資格がある。

●2022年世界陸上競技選手権大会（オレゴン）の大会要項の承認

参加標準の突破期間は2021年6月27日から2022年6月26日の12か月間とする。

●東京オリンピック

選考のための、参加標準記録、ワールドランキングの対象期間が12月1日から再開された。

●世界ロードランニング選手権大会

世界ハーフマラソン選手権の形態を発展させて、2023年から開催される2日間のイベント。種目はハーフマラソンと5kmレースとなるが、将来的には他の種目の実施も検討する。

5. WAS イベントの開催日程に関する方針

現在の定められた日程表（Fix Dates）から基本的な日程表（In principle dates）に変更する事によって、大会開催地の状況や意向により即した大会運営が可能となる。以下は各大会の基本的な開催時期：

| | |
|---------------|--------------|
| 世界クロスカントリー選手権 | 2月第2週 |
| 世界室内選手権 | 3月第3週 |
| 世界ロードランニング選手権 | 3月/4月 又は 10月 |
| 世界チーム競歩選手権 | 4月 又は 5月 |
| 世界リレー | 5月第1週 又は 9月 |
| U20世界陸上競技選手権 | 8月中旬 |
| 世界陸上競技選手権 | 8月最後の2週 |

6. 2024年パリオリンピック開催種目

IOCはクロスカントリー種目のミックスレースを実施する案を当初支持していたが、パリ大会の予算の縮小化、大会運営の簡素化を背景に、パリ大会での実施は見送りとなる予定である事が報告された。（正式な発表は12月7日のIOC理事会後）しかし、IOCはクロスカントリーの実施に向けては前向きに捉えており、将来的な実施については協議を継続する。男子のみで実施されていた50km競歩は、東京大会で最後となり、新たな競歩のミックスレースの形態については、IOC提出期限の5月末迄に決定する。

7. その他

●WASイベント（世界陸連主催大会）に派遣される技術代表が承認された。ジェンダーバランス、エリアバランスが取れていないので、教育活動を通じて、有能なデレゲートの育成に重点を置く。

●AIU報告が行われ、2021年からのWADA Code の変更に伴い、WA Anti-doping Rules も修正が行われる。

●2021年11月中国・南京で開催予定であったコンGRESS（総会）が、コロナ禍で開催地、日程の確定ができない。各MFの承認を得た上で、開催予定の11月の半年前迄に、開催方法も含めた詳細を決定する。

全国普及育成・指導者養成担当者会議 報告

日本陸連 指導者養成委員会委員長 山本 浩

日時：2020年12月11日（金）16時00分～18時30分

場所：ウェブ会議

出席者：尾縣 貢専務理事、山本 浩指導者養成委員長、沼澤秀雄副委員長、桜井智野風コミッティーディレクター、岸 政智普及ディレクター、秋元恵美指導者養成委員、指導者養成委員会委員、都道府県陸上競技協会指導者養成／普及育成担当者、磯貝美奈子指導者養成課長、田中悠士郎指導者養成課主事、古田詩歩指導者養成課員

議題：

1. 日本陸連より〔尾縣 貢〕

日本陸連では2018年に普及育成と強化の両面から競技者育成指針を策定。エビデンスを元に策定されたものであり、競技者育成に大きな変化が生じてきている。今回は指導者養成指針がつくられた。内容が非常に練り込まれたもので、各都道府県でもこれに沿って進めてほしい。

2. 指導者養成に関して〔山本 浩〕

3. 指導者養成指針および指導者資格に関して

(1) 指導者養成指針〔沼澤秀雄〕

指導者養成指針策定の経緯、内容を説明。

〈都道府県陸協の意見〉教職の立場として、子どもたちの健全な育成、社会人を育てる、心と身体を鍛えるということが大切。学校現場としては、教員の働き方改革、また忙しい中、どのように時間を作るかがポイントとなる。部活動の指導や外部指導者をどのように依頼するのか、各都道府県が苦勞している部分であり、資格制度で方向性を示す、大事な指針になると思う。

(2) 日本陸連公認指導者資格制度〔沼澤秀雄〕

日本陸連の指導者制度の概要について。

(3) 都道府県指導者養成担当者について〔田中悠士郎〕

現在、指導者養成担当者が「いる」都道府県が34、「いない」が13。2021年度から全都道府県陸協で指導者養成担当者を置いてほしい（普及育成と兼務の場合もありうる）。「ロードマップ」（PPT）で日本陸連の今後の指導者養成への取り組みについて説明（スタートコーチの開始、ジュニアコーチ、公認コーチ、更新研修等の拡充、コーチ養成計画等。事前に寄せられた質問への回答も含む）。

担当者の主な役割

①陸連及び他の団体との連絡窓口②指導者養成事業（JAAF主催のジュニアコーチやその他講習会、陸協内での指導者養成事業等）の計画、統括、講師。

〈都道府県陸協の具体例報告〉公認コーチについては陸協で予算をつけて2名ずつ受講できるようにしている。特に高校の教員がとれるよう優先しているが、現場で力を発揮する前に、異動や管理職へ上がっていきってしまう人が多く歯がゆい。陸協主催の選手合宿では15名ほどの指導者も参加。各都道府県の強化の担当者の話を聞くなどして若手指導者の育成をしている。昨年度から小学校の部活動がなくなり、クラブがかなり増えている。

4. 委員会事業関連（2020年度事業報告および2021年度事業計画）

4-1 指導者資格および資格者養成講習会

(1) JAAF公認コーチ（JSPO公認陸上コーチ3）養成講習会〔桜井智野風〕

◇2020年度実施状況について

五輪開催予定もあり各都道府県からの推薦1名であった。集合講習はできず。実技講習、指導演習等の集合講習は来年度実施予定（開催日未定）。今年度受講者は2年にかけて講習を修了することになり、2022年10月の資格付与となる。

◇2021年度実施計画および都道府県からの受講者推薦について

五輪により2020年度同様に各都道府県からの推薦は1名で理解願いたい。今年度同様、eラーニング、集合講習、自宅学習で構成する予定（詳細はJSPOと調整・検討中）。コーチ養成システム再構築に向け、2022年度以降は受講者（枠）を増やす予定。

(2) JAAF公認ジュニアコーチ（同 コーチ1）養成講習会〔桜井智野風〕

◇2020年度は13会場での開催を予定していたが全て中止

◇2021年度の実施計画について

基本カリキュラムは変更していないが今後変更する可能性がある。免除適用コース承認校在校生の受講料を15000円（共通免除同額）とする。教員免許更新を受講・申請する際の受講料を要項に明記。現状未定な部分は決まり次第お知らせする。2021年度の都道府県開催は、7月から3月上旬までの間で設定を願いたい。現行カリキュラムでは、スポーツリーダーも取得できる。スポーツリーダーの養成は2021年度が最後（JSPOが養成を終了した。同レベルの資格としてはコーチングアシスタントがそれにあたる）。2022年度からジュニアコーチのカリキュラムが変わる予定。内容、カリキュラムは、JSPOの制度やカリキュラムにあわせ、できるだけ受講者の負担を軽減できるよう検討する。

新型コロナウイルス感染症対応としては陸連ガイダンス（随時更新）にそって判断。eラーニングなども含め、講習のやり方を模索する。将来的には全指導者が資格をもつ（コーチとなる）ことになり、ジュニアコーチの全都道府県での開催を目指したい（段階的に開催県を増やす）。

(3) JAAFコーチングクリニック〔秋元恵美〕

今年度、初めてのオンライン（リモート）でのコーチングクリニックを開催。例年同様、JSPO公認指導者資格の更新研修にも充当。申込者は定員（100名）に達しており、有資格者向けに追加開催を予定。今後も指導者の学びの場としてオンライン講習を取り入れながら実施したい。2017年・2018年度には、女性指導者のためのコーチングクリニックを行った。女性の指導者数が少ない中、増やし支援するために女性に向けた活動を今後考えていきたい。

〈具体例〉佐賀は女性の小学生の指導者（教職員・社会体育）がゼロ。有資格者の小学生クラブチームの女性指導者は5年前までずっと自分一人だったが、佐賀陸協の協力のもと、現在50ほどのチームで、有資格者を7名まで増やした。女

性指導者のコミュニティをつくる(きっかけ作り)など、組織をあげて継続できるサポートを行うように努力している。

(4) 指導者講習会および普及事業

U10/U13/U16 指導者講習会みんな集まれ!!

陸上遊び/陸上運動/陸上の基本運動 [岸 政智]

実施の可能性を検討中。決定次第改めて日本陸連から都道府県陸協および本会議出席者へ連絡をする。実施の場合、都道府県での開催について検討のうえ、3月中に開催希望を出してもらう予定。10月から3月までの間で開催を願いたい。今回から、子どもたちだけでなく指導者向けの講習会として実施する。前日夕方(又は夜)に指導者向けの講習を行い、当日は指導者+子どもたちへのクリニック。ここで学んだ指導者に、各地域、各所属の現場で、より良い、多くの指導や講習会を行ってもらいたい。特にU10(2020年より計画したが実施できなかった)など積極的にやっていきたい。

(5) 全国指導者養成担当者研修会 [沼澤秀雄]

2021年度中(12~2月頃)に、各都道府県の指導者養成担当者、またはジュニアコーチ等講習会の講師となる人を対象とした研修会の実施を予定している。決定次第お知らせする。陸連からの情報伝達や団体間の情報共有だけでなく、各都道府県で指導者養成講習会(ジュニアコーチ・スタートコーチ等)が無理なく開催できるよう、担当者への研修の場として考えている。ジュニアコーチの開催を拡大することや、2022年度からスタートコーチの開始を目指すなど、資格取得にチャレンジできるよう、都道府県陸協と協力しながら進めたい。

(6) 資格更新研修について [田中悠士郎]

都道府県陸協で年に1回以上の更新研修を開催されたい。オンライン講習の導入や、近隣の都道府県で連動した研修会の開催等、陸協の負担軽減と、受けやすく、様々な機会を提供できるよう考えていく。JSPO公認スポーツ指導者管理システムのアカウント未登録の都道府県には申請し、取得されるよう求めたい。資格者登録状況の把握が容易になる。

4-2 小学生関連

(1) “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会 [岸 政智]

◇2020年 都道府県大会報告

32会場で開催。開催要項、リザルトを陸連HPに掲載している。種目ごとのダイジェスト動画(7~9月開催分、10~11月開催分)を公開した。全国大会から都道府県大会に形を変えたことで、担当者には多くの負担を掛けた。コロナ感染防止対策や、選手・保護者への対応等、大変な苦労を重ねながら開催されたことに深く感謝する。

◇2021年(第37回)大会について

内容は2020年に予定していたものとはほぼ同様。日程、会場については未定。9月の開催を予定し、会場確保を進めている。都道府県選手団の申込は、8月13日(金)頃を予定しており、それにあわせて都道府県選考会等の予定を立ててほしい。

※ 8月14~15日で選考会を開催する都道府県があれば、申込期日の調整をする。小学生陸上についての事前質問へも回答。
〈都道府県陸協の具体例報告〉参加人数771名(45団体)。無観客で引率教員と保護者のみ入場許可とし、全国大会と同種目で開催した。県陸協小学生部会(小学校教員)で運営。

学校単位での参加を推奨し競争主義を抑える。交流大会の2週前に全小学校を対象にした県小学生選抜大会(5~6年生が2日間で1500名参加)を開催。コロナのため多数の郡市が開催に難色を示し、教育長への依頼、学校体育会、小体連へ幾度も説明を行い、同意を得た。この大会に準じて交流大会を開催し、スムーズに行えた。本当にやって良かった。

(2) 小学生登録(調査結果) [岸 政智]

小学生登録について複数意見があり、またその他各所でも意見や質問があった。小学生の登録を進めるべきだという声が多く出ている。陸連では現在登録制度の再構築を行っており、小学生および指導者の登録については2023年度からの開始を目指し、検討している(内容詳細、登録料有無を含め今後の検討事項)。

登録の意味 [山本 浩]

球技や格闘技といった相対的な力で優劣が決するものと、陸上競技は次元の違うスポーツ。それはいわば自分をとことんまで突き詰める絶対的な競技。その魅力は記録という武器を持つところにある。「小学生から記録をとってよいのか」と聞かれることがある。記録そのものは個人の財産。個人に返すことが大事。むやみに公開し、不要な競争の材料にするのは避けたい。使い方を誤ると、記録のために子どもたちを追いつめてしまう状況を作りかねないからだ。取るときの品質も大切。しっかりとらないと子どもたちの財産にならない。深く考えながら登録について検討したい。

5. 来年度実施希望調査 その他連絡 [田中悠士郎]

今年度実施した中高の登録校の指導者を対象として行ったアンケート調査(指導者バックグラウンド調査)から、指導者のスポーツ競技歴についての調査項目で、陸上競技経験者がどの程度いるのか(中学時代に経験:52%、高校時代に経験:68%、大学時代に経験:54%)が分かった。資格保有率は14%程度、自身の研鑽として研修に参加した人は41%だった。

6. 質疑応答・その他

7. 都道府県陸協における指導者養成 [桜井智野風]

陸協のメンバー同士で情報交換、意見交換を求めたいところだが、今回は幾つかの都道府県の方に各陸協での普及や指導者養成の取り組み、今年度コロナ禍の中でどのように進められたかなど聞いた。

〈具体例〉コロナ禍で、東京ということもあり、活動の再開は厳しいものがあつた。夏近くまで施設は使えない状況が続き厳しい状況だった。クラブでは、オンラインを使って、動画を見てもらって、コーチを使ってワンポイントレッスンを2ヶ月くらい配信した。活動においては、グーグルフォームを活用してアンケートを実施し、少しずつ再開した。活動を再開してから、体温チェックを今でもやっている。体温が高い場合は参加を見合わせている。距離をとりながらはなかなか難しいので、指導を分散するなど工夫している。大学生コーチにも活躍してもらって、最近やっと集合での練習を再開できた。学生も、資格をとろうかという動きになっている。先々競技を続けていってほしい、今後また陸上を楽しんでほしい、という考えの元でやっている。

###

第2回ジャパンレースディレクターズミーティング2020

【開催要項】

開催テーマ：競技規則の変更についての説明

開催日時：2020年12月1日（火）14：00～15：00

開催方法：オンライン開催（ZOOM）

【議事次第】

あいさつ：日本陸上競技連盟 専務理事 尾縣 貢

第1部：2020年7月以降の競技会開催実態調査まとめ

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤 永一

第2部：競技規則の変更について

①道路競走における競技規則第143条（TR5）（靴底の厚さの測定）の適用について

②ロードレースにおけるネットタイムの取り扱いについて

【議事録】

1. あいさつ：尾縣 貢（日本陸上競技連盟 専務理事）

・7月に競技を再開して以来、全国で800もの競技会が開催され、感染者は1人とどまった。

・関係者の皆様には改めて御礼申し上げるとともに引き続きのご理解、ご協力をお願いしたい。

・これからは福岡国際、防府、そして高校駅伝など本格的にロードレース競技会が開催されていく。

・開催については、沿道対策などTrack&Field以上に大変なものがあると思う。

・そのような中において、去る11月12日に本連盟は理事会を開催し、道路競走競技に関する以下2点が承認された。

1. 靴底の厚さ測定の対象選手について

2. ネットタイムの活用方法について

・ネットタイムの活用については、コロナ禍において安全安心な大会を実施していく上で非常に重要な役割を担うものであると考えている。

・本日の内容は各陸協・大会に持ち帰って頂き是非活用して頂きたい。

・難しさは理解しているが、是非ロードレースの再開について進めて頂きたい。

2. 第1部：2020年7月以降の競技会開催実態調査まとめ

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤 永一

・調査対象競技会：2020年7月1日～10月4日までの競技会

・開催競技会数：854大会

・上記のうち無観客対応の競技会数：557大会

・競技会参加競技者数（延べ人数）：621,718名

・競技会参加大会役員・審判等数（延べ人数）：110,355名

・競技会終了後2週間以内の新型コロナウイルス感染者の報

告の有無：1件（1名）

- ・大会実施にあたって、効果があったと思われる対応（共通している対応）としては、3密の回避（密閉、密集、密接）/マスクの着用/除菌対策の徹底（アルコール除菌・手洗い・手指消毒）/大会に関わる人の体調チェックと検温であった。
- ・この4つに関してはどの大会も実施頂いている。多少の違いはあるものの、各大会基本的な感染対策をしっかりと実施頂いているという印象である。
- ・今後ロードについても実態調査をさせて頂ければと思う。

日本陸上競技選手権大会・長距離種目の開催にあたって

■観客の受入れ

ヤンマースタジアム長居（収容人数47,000人）

→観客 約2,000～2,500人を動員予定

■対策

- ・基本的な感染対策を実施。
（マスク着用、3密の回避、手洗い・手指消毒の推奨、ソーシャルディスタンスの確保）
- ・大会1週間前からの体調チェックと報告
- ・当日全ての方の検温
- ・来場者（観客）の連絡先の登録
- ・来場者（観客）の座席の登録（座った席と座っていた時間）
→感染が発覚した場合、それ以上感染が拡大しないように追いかけるような仕組みとしている。
- ・大会に関わる全ての人に注意を頂きたいということで、大会HP、SNSを使った呼びかけを積極的に実施。

3. 【第2部】競技規則の変更について

①道路競走における競技規則第143条（TR5）（靴底の厚さの測定）の適用

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤 永一

■第143条5、13の適用対象競技者について

- ・本連盟の登録会員かつ以下の参加資格記録を有する競技者は、靴底の厚さの測定をレース前に測定して参加する。またレース前に対象になっていなくてもレースにおいてこの記録を達成した競技者はレース後に靴底の厚さを確認する。

男子 ハーフマラソン：1:04:00

マラソン： 2:21:00

女子 ハーフマラソン：1:18:00

マラソン： 2:56:00

（日本ランキング200位相当）

■駅伝競走における取り扱い

- ・駅伝競走は公認申請していただいている公認競技会ではあるが、記録については一部の競走を除いて公認されない。

そのため規則第143条5, 13については非適用とし、靴底の計測は行わなくて良いこととする。

※適用競技会=ロードリレー(42.195kmの公認マラソンコースを用いて、5km, 10km, 5km, 10km, 5km, 7km195の区間で行うもの。世界記録公認の対象)

②ロードレースにおけるネットタイムの取り扱いについて

日本陸上競技連盟 事業部RunLink課 畔蒜洋平

- ・大会主催者がネットタイムを参加標準記録の資格記録として扱ったり、エリートカテゴリーの競技者を除くランナーの順位付け等に活用したりしても良い。
- ・WAの公認記録はあくまでグロスタイムであることに変わりはない。
- ・大会主催者の判断でネットタイムをうまく活用して頂きたいというのが今回の変更の趣旨である。
- ・エリートカテゴリーの競技者を除くと記載があるように、一般ランナーの方を対象としており、主催者の裁量でネットタイムの使用方法を決めて構わないということになる。
- ・併せて「競技会の参加標準記録として使用できるのは、グロスタイムだけである。」という記載が削除となる。
- ・ウェーブスタート(時差スタート)を実施する場合は、ウェーブごとにグロスタイムとネットタイムを計測することとする。つまり、ウェーブスタートを実施した場合は、ウェーブごとのグロスタイムが公認記録となる。
- ・ネットタイムを計測した競技会においては、記録の申請は電子申請を行い出場した全てのランナーのグロスタイム、ネットタイムを提出頂く。
- ・ルール改正の背景として、コロナ禍で、陸連としてもウェーブスタートを推奨させて頂いた。その中で大会主催者の皆様から、ネットタイムを使用できるようにして欲しいというご意見も多数頂き改正に至った。
- ・市民ランナーの皆様からもご意見が多数あったが、世界6大レースにおいては、エリートについてはグロスで計測しているものの、一般の部においてはネットで順位付けを行っている背景もあり、グローバルスタンダードに合わせる形で、今回ルールを変更させて頂いた。
- ・実際に大会の話を見ると、新聞社さんが関わる大会だと翌日100位までのリストを新聞に掲載するというを実施しているが、このときの掲載方法をグロスとするのかネットとするのかという議論もあると聞いている。どちらのタイムで掲載するかは大会ごとの判断でお願いできればと思う。
- ・標準記録を設けている大会においては、ネットタイムを受け入れるかどうかということについてもご判断を頂ければと思う。
- ・海外の陸連にも確認を取ったが、ルール上本件について定めておらず、基本的には各大会の判断を尊重するということで各国も対応している。
- ・WAもネットタイムを公式タイムに認めるような動きはあるかという質問を頂いているが、現状変更の予定はなく、あくまで大会によってこの点を柔軟に対応頂けるようになるとい

うのが今回のルール改正の趣旨となる。

4. 質疑応答

- Q: 靴底の事前測定をせず、既定のタイムで完走した人のみレース後に計測するのは問題ないか。
- A: 問題ない。レース後に対象選手を招集所など、どこかに集めた上で計測頂ければと思う。
- Q: 計測器具については、各都道府県陸協にて所有しているという理解で問題ないか。
- A: スタジアムにおける競技会において既にシューズの計測は実施しているため、地域陸協にお伺い頂ければと思う。主催者さん独自に手配頂くというよりは、普段大会を主管している陸協の方にご相談頂きたい。既に陸協には陸連から情報を共有している。大会開催が近づいてきたタイミングでご相談頂ければと思う。
- Q: 当日、資格記録を突破してゴールしても、登録会員以外であれば、レース後に計測しないでいいという認識で大丈夫か?
- A: 陸連登録していない選手については計測しなくて問題ない。
- Q: 参加資格を有するもので、当日の記録が遅かったもしくはリタイアした場合は、シューズの計測をしなくてよいという認識でよいか。
- A: レース後に測定するという運用であれば、その認識で問題ない。レース前に計測をしている場合は記録を有している時点で計測が必要となる。
- Q: ウェーブスタート方式を採用した場合、全てのランナーの記録がネットタイムとなると思うが、公認大会として記録が認められるのか。
- A: ウェーブスタート(時差スタート)を実施する場合は、ウェーブごとの号砲に合わせて計測した記録がグロスタイム(=公認記録)になる。順位の付け方は、大会ごとにご判断頂ければと思う。
- Q: 一般とエリートの区別はどうしたら良いのか。
- A: シューズの測定については、測定の必要があるのは陸連登録者のみで、その中で基準を上回った選手のみ計測頂きたい。ネットタイムについては、ルールブックにもエリートカテゴリーという表記は書かれているが、明確な線引がされていない。大会によってエリートとして募集をかけているところで区別するか、そのように募集をかけていない場合は、あくまで例であるが第一ブロックで区別する、というように大会ごとに定義付けをしていただくことになる。
- Q: ウェーブスタートを導入する大会において、ウェーブごとにグロスタイムとネットタイムを計測することについて、順位の決定方法はどうするのか?
- A: 実施方法は各大会にてご判断をいただくことになる。参考までに、神戸マラソンのHPにネットタイムの運用について記載されているので共有をさせていただく。
http://kobe-marathon.net/2019/runner/competition_info.html

日本陸連アスレティックス・アワード2020 報告

「日本陸連アスレティックス・アワード」は当該年に活躍した競技者や競技を通じて社会に貢献された方々を称えるとともに、本連盟をご支援いただいている皆さまに感謝の意をお伝えする会とし、さらには日本陸上界の今後の発展を期することを目的として開催してきました。

今回は、新型コロナウイルス拡大防止のため、競技者ならびに関係各所の皆さまが一堂に会するアワードは実現しませんでした。2020年の陸上界に明るいニュースを届けていただいた受賞者の方々を特設サイトにて発表いたしました。

〈受賞者一覧〉

■アスリート・オブ・ザ・イヤー

○新谷仁美（積水化学）

- ・ヒューストンハーフマラソン
女子ハーフマラソン（男女混合） 日本記録樹立
1時間6分38秒
- ・第104回日本陸上競技選手権大会・長距離種目
女子10000m 優勝・日本記録樹立 30分20秒44
東京2020オリンピック日本代表内定

■優秀選手賞

○金井大旺（ミズノ）

- ・第103回日本陸上競技選手権大会・室内競技
男子60mH 日本記録樹立 7秒61
- ・アスリートナイトゲームズイン福井
男子110mH 日本歴代2位 13秒27
- ・第104回日本陸上競技選手権大会
男子110mH 優勝 大会MVP受賞 13秒36

○田中希実（豊田自動織機TC）

- ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会
女子3000m 日本記録樹立 8分41秒35
- ・セイコーゴールデングラプリ陸上2020東京
女子1500m 優勝 日本記録樹立 4分5秒27
- ・第104回日本陸上競技選手権大会・長距離種目
女子5000m 優勝 15分5秒65
東京2020オリンピック日本代表内定

○相澤晃（旭化成）

- ・第104回日本陸上競技選手権大会・長距離種目
男子10000m 優勝 日本記録樹立 27分18秒75
東京2020オリンピック日本代表内定

■新人賞

○三浦龍司（順天堂大学）／東京運動記者クラブ選出

- ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ千歳大会
男子3000mSC 日本歴代2位 U20日本記録樹立
8分19秒37
- ・第97回東京箱根間往復大学駅伝予選会
男子ハーフマラソン 日本選手トップ 1時間1分41秒
- ・秩父宮賜杯第52回全日本大学駅伝対校選手権大会
第1区 区間記録樹立 27分7秒

○兒玉芽生（福岡大学）／東京運動記者クラブ選出

- ・第89回日本学生対校選手権大会
女子100m 日本歴代3位 11秒35
- ・第104回日本陸上競技選手権大会
女子100m 優勝 11秒36

○古澤一生（前橋育英高）／日本陸上競技連盟選出

- ・群馬県高校体育大会
男子棒高跳 日本高校記録樹立 5m51

○廣中璃梨佳（日本郵政グループ）／

日本陸上競技連盟選出

- ・第38回都道府県対抗女子駅伝
第1区 区間賞 18分39秒
- ・第68回全日本実業団対抗選手権大会
女子5000m 日本歴代3位 14分59秒37
- ・第40回全日本実業団対抗女子駅伝
第1区 区間賞 23分21秒

■特別賞

○株式会社アシックス

新型コロナウイルスの影響のなか陸上競技界を支え、ワールドアスレティックスのスポンサーとして、世界のスポーツ界の発展に寄与するワールドワイドな貢献を称える。

〈アスレティックスアワード 特設サイト〉

受賞者からのコメント動画や2020年総集編動画を掲載しております。是非ご覧ください。

<https://www.jaaf.or.jp/award/2020/>



2020数字で見る陸上競技 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別にご紹介します。

2020年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】 割合（％）＝（高校生陸連登録者数）÷（高校生全生徒数）× 100

| 都道府県名 | 2020年度高校生 陸連登録者数 | 前年比 | 前年数 | 2020年度高校生 全生徒数 | 2020年度割合 | 2019年度高校生 全生徒数 | 2019年度割合 |
|-------|---------------------|---------|---------|-------------------|----------|-------------------|----------|
| 北海道 | 3,344 | -747 | 4,091 | 119,773 | 2.8% | 123,112 | 3.3% |
| 青 森 | 1,341 | -84 | 1,425 | 32,155 | 4.2% | 33,653 | 4.2% |
| 岩 手 | 1,542 | -168 | 1,710 | 31,229 | 4.9% | 32,580 | 5.2% |
| 宮 城 | 2,145 | -446 | 2,591 | 57,157 | 3.8% | 58,803 | 4.4% |
| 秋 田 | 1,100 | -181 | 1,281 | 22,266 | 4.9% | 23,102 | 5.5% |
| 山 形 | 1,442 | -113 | 1,555 | 28,281 | 5.1% | 29,251 | 5.3% |
| 福 島 | 1,695 | -275 | 1,970 | 47,571 | 3.6% | 49,425 | 4.0% |
| 茨 城 | 1,963 | -402 | 2,365 | 74,121 | 2.6% | 75,540 | 3.1% |
| 栃 木 | 1,180 | -364 | 1,544 | 50,745 | 2.3% | 52,182 | 3.0% |
| 群 馬 | 1,512 | -81 | 1,593 | 49,994 | 3.0% | 51,371 | 3.1% |
| 埼 玉 | 5,458 | -425 | 5,883 | 167,972 | 3.2% | 172,219 | 3.4% |
| 千 葉 | 4,536 | -1,123 | 5,659 | 145,920 | 3.1% | 148,326 | 3.8% |
| 東 京 | 6,449 | -1,566 | 8,015 | 306,302 | 2.1% | 310,355 | 2.6% |
| 神奈川 | 5,041 | -664 | 5,705 | 200,230 | 2.5% | 203,674 | 2.8% |
| 新 潟 | 1,936 | -420 | 2,356 | 53,114 | 3.6% | 55,030 | 4.3% |
| 富 山 | 955 | -260 | 1,215 | 26,722 | 3.6% | 27,680 | 4.4% |
| 石 川 | 948 | -261 | 1,209 | 30,515 | 3.1% | 31,532 | 3.8% |
| 福 井 | 645 | -188 | 833 | 21,221 | 3.0% | 21,856 | 3.8% |
| 山 梨 | 753 | -139 | 892 | 23,384 | 3.2% | 24,070 | 3.7% |
| 長 野 | 1,358 | -282 | 1,640 | 54,280 | 2.5% | 56,070 | 2.9% |
| 岐 阜 | 1,846 | -314 | 2,160 | 52,577 | 3.5% | 54,178 | 4.0% |
| 静 岡 | 3,673 | -554 | 4,227 | 94,652 | 3.9% | 96,815 | 4.4% |
| 愛 知 | 6,950 | -511 | 7,461 | 190,309 | 3.7% | 193,454 | 3.9% |
| 三 重 | 1,928 | -297 | 2,225 | 45,829 | 4.2% | 47,154 | 4.7% |
| 滋 賀 | 1,448 | -287 | 1,735 | 37,868 | 3.8% | 38,792 | 4.5% |
| 京 都 | 2,096 | -317 | 2,413 | 67,847 | 3.1% | 69,037 | 3.5% |
| 大 阪 | 5,379 | -1,128 | 6,507 | 214,115 | 2.5% | 220,504 | 3.0% |
| 兵 庫 | 5,056 | -653 | 5,709 | 132,810 | 3.8% | 136,275 | 4.2% |
| 奈 良 | 1,033 | -156 | 1,189 | 33,849 | 3.1% | 35,220 | 3.4% |
| 和歌山 | 652 | -123 | 775 | 24,240 | 2.7% | 25,524 | 3.0% |
| 鳥 取 | 610 | -29 | 639 | 14,572 | 4.2% | 14,793 | 4.3% |
| 島 根 | 608 | -158 | 766 | 17,707 | 3.4% | 18,121 | 4.2% |
| 岡 山 | 1,360 | -112 | 1,472 | 51,008 | 2.7% | 52,458 | 2.8% |
| 広 島 | 2,216 | -487 | 2,703 | 69,260 | 3.2% | 70,884 | 3.8% |
| 山 口 | 1,289 | -315 | 1,604 | 32,051 | 4.0% | 33,099 | 4.8% |
| 徳 島 | 552 | -55 | 607 | 17,801 | 3.1% | 18,431 | 3.3% |
| 香 川 | 857 | -155 | 1,012 | 25,477 | 3.4% | 25,878 | 3.9% |
| 愛 媛 | 1,036 | -325 | 1,361 | 32,547 | 3.2% | 33,321 | 4.1% |
| 高 知 | 505 | -101 | 606 | 17,646 | 2.9% | 18,343 | 3.3% |
| 福 岡 | 3,588 | -619 | 4,207 | 125,635 | 2.9% | 128,210 | 3.3% |
| 佐 賀 | 1,006 | -54 | 1,060 | 23,034 | 4.4% | 23,834 | 4.4% |
| 長 崎 | 1,717 | -194 | 1,911 | 35,385 | 4.9% | 36,624 | 5.2% |
| 熊 本 | 1,389 | -206 | 1,595 | 45,401 | 3.1% | 46,369 | 3.4% |
| 大 分 | 979 | -100 | 1,079 | 29,937 | 3.3% | 30,846 | 3.5% |
| 宮 崎 | 920 | -122 | 1,042 | 29,590 | 3.1% | 30,455 | 3.4% |
| 鹿児島 | 1,299 | -101 | 1,400 | 43,928 | 3.0% | 44,981 | 3.1% |
| 沖 縄 | 566 | -128 | 694 | 44,037 | 1.3% | 44,938 | 1.5% |
| 合 計 | 95,901 | -15,790 | 111,691 | 3,092,064 | 3.1% | 3,168,369 | 3.5% |

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校＞全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

※陸連時報2020年3月号に掲載した【2019数字で見る陸上競技 都道府県別高校生陸上競技部員割合】のデータに誤りがございました。正式な数値は下記をご覧ください。

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202101/27_113939.pdf



2020年度 全国検定員会議 報告

施設用器具委員会

日 時 2020年11月21日(土) 22日(日)

場 所 Web会議システムを用いてリモート開催

出席者 日本陸上競技連盟事務局 井上 吉澤 榎田
施設用器具委員会 高木良郎 高沼正利 福島信久
山口賢司 苅込英昭 大島 巖 飯村光夫 米岡利昌
塚野武史 稲垣大介 横山尚多香
全国検定員48名

施設用器具委員会では、全国検定員会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しており、2020年度は全国検定員会議を実施した。新型コロナウイルス感染拡大のためWeb会議システムを用いて開催した。各都道府県陸協より48名が推薦(新規5名)され、2日間の会議に参加した者が2021・2022年度の検定員として活動していくことになる。以下は2日間の会議の概要である。

【1日目】司会 苅込幹事

◇開 会◇ 施設用器具委員会 副委員長 高沼 正利

◇挨拶◇ 日本陸連 専務理事 尾縣 貢

◇挨拶◇ 施設用器具委員会 委員長 高木 良郎

◇会 議◇

(1) 検定員の心構えと検定の注意事項 高木委員長

1. 検定制度の概要
2. 検定員の役割
3. 検定委員の心構え
4. 委嘱に関する内規
推薦基準の変更、自転車計測員の増員について説明した。
5. 検定の注意事項
6. 公認に関する注意事項
7. 最近の検定課題

新型コロナウイルス感染拡大による検定業務への影響について。検定にあたり「検定再開の注意」を遵守されたい。今後の委員会もしくはWeb会議となる。報告書の送付を早めに行ってほしい。WA認証競技場の対応について。2019年1月1日から5年間の有効期限が課せられることになった。日本体育施設協会の屋外体育施設部会の協力を得て、更新方法について交渉していく。

～投てき用人工芝採用の競技場の動画の紹介～

(2) 陸上競技場の計算実例の解説 米岡委員

事前に課題を配布、回収、採点を行った計算実例の解説を行った。

(3) 陸上競技場報告書の記入実例の解説 山口幹事

事前に課題を配布、回収、採点を行った報告書の記入実例の解説を行った。

(4) 陸上競技場の現状と審査等の注意事項 高沼副委員長

1. 陸上競技場の現状
2. 報告書審査での注意事項
3. 陸上競技場実測調査報告書
報告書の書き方について、審査するとき間違いの多い箇所を中心に注意事項を共有した。

(5) 長距離競走路の検定 福島副委員長

自転車計測における事前の計画書や経路図作成の必要性、計測員として大会に派遣された際の事例や任務など具体的な確認事項を伝えた。オリンピックのマラソンコース計測について報告をした。

- ・競走路の現状
- ・申請書、報告書について
- ・報告書の作成の注意
- ・大会派遣での経験
- ・自転車計測員の競技会での任務
- ・委員会からの周知事項

・AB自転車計測員の会議

・長距離競走路の検定に必要な書類

・ポイント図について

・自転車計測の計画書

・オリンピックのマラソンコースの計測について
～質疑応答～各検定員からの質疑応答を行った。

【2日目】司会 苅込幹事

(6) 規則の修正と対応 高木委員長

1. 2020年度の施設用器具委員会関係の修正規則

①4種Lの新設

②100m逆走の取り扱いの改定

写真判定の設備を設置、フィニッシュラインはその都度設置、ハードルのマーキングは無しで標識タイルのみとし向きは走る方向とする。400mの競技場ではフィニッシュの位置は角石CDとすることを再確認した。

③障害物の対応

U18の高さ(838mm)の規格が新たに定められたが国内では実施しない。障害物を交換するところでは対応された製品が納入している。競技会で高さを間違えないようにしてほしい。

④WA施設マニュアルの対応

⑤マニュアルの更新

標識タイル計算書において、レーン幅1m25を廃止し、直線80m、84.39m版を発行。用器具規格マニュアルを2010年以来の10年ぶりに更新。

⑥用器具関係

2. すでに規則改正された等の施設用器具委員会関係の対応

舗装材の取り扱いや公認日設定の取扱いが検定日から1ヶ月以内となることなど改正された規則等の対応の注意事項を共有した。

3. 2021年度の施設用器具関係の規則修正

第1種2種公認陸上競技場の基本仕様、公認競技場に関する細則の改正予定の説明。

(7) 検定に関する課題の意見交換 司会 苅込幹事

検定に関する課題について各検定員と意見交換・質疑応答を行った。

現在の検討課題となっている派遣費用の取扱いや第1種第2種の取扱い、三段跳の踏切位置などについて、意見をもらい課題を共有した。

(8) WAの動向と2019世界陸上ドーハ視察報告 米岡委員

WAの規則改正の説明と2019世界陸上ドーハで全期間、技術総務として審判に従事した状況を報告した。

◇修了証授与◇ 稲垣氏(神奈川)に代表で修了証を授与。

◇挨拶◇ 高木委員長

◇閉 会◇ 福島副委員長



大会観戦ガイド

第104回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 兼 東京2020オリンピック日本代表選考競技会 第32回U20選抜競歩大会

※沿道での応援については自粛いただくようご協力をお願いいたします。(1月30日現在)

大会開催に向けて準備を進めておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、競技会の開催が中止になる場合がございますので予めご了承ください。

▼期日：2021年2月21日（日）

▼コース：六甲アイランド甲南大学西側20kmコース

▼種目・スタート時刻：

男子20km競歩（日本選手権） 8時50分

女子20km競歩（日本選手権） 10時35分

U20男子10km競歩 12時35分

U20女子5km競歩 13時35分

▼問合せ先：公益財団法人日本陸上競技連盟事務局

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9 階

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1506/>



昨年度の大会より（写真：アフロススポーツ）

第104回日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走 第36回U20日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走

※大会開催に向けて準備を進めておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては開催中止になる場合があります。予めご了承ください。

▼期日：2021年2月27日（土）

▼会場：国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース
福岡県福岡市東区西戸崎 18-25

▼種目・スタート時刻：

U20男子8km 13時50分 U20女子6km 14時30分

シニア女子8km（日本選手権種目） 15時00分

シニア男子10km（日本選手権種目） 15時40分

▼問合せ先：福岡クロカン事務局

TEL:092-738-2180 FAX:092-738-2243

▼大会特設ページ：<http://www.mit.fukuoka.jp/xc/>

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1507/>

第76回びわ湖毎日マラソン大会

▼期日：2021年2月28日（日）9:15スタート

▼コース：日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース
（42.195km）皇子山陸上競技場—柳が崎—瀬田唐橋西詰—石山寺—瀬田川洗堰—瀬田唐橋東詰—県立漕艇場—新瀬田浄水場前 折り返し—皇子山陸上競技場

▼問い合わせ先：びわ湖毎日マラソン大会事務局

TEL:06-6346-8249 FAX:06-6346-8372

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1508/>



昨年度の大会より（写真：アフロススポーツ）

名古屋ウィメンズマラソン2021

▼期日：2021年3月14日（日）9時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

愛知・バンテリンドーム

愛知県名古屋市中区大幸南 1-1-1

▼コース：名古屋ウィメンズマラソンコース

▼問合せ先：マラソンフェスティバルナゴヤ・

愛知ランナーコールセンター TEL：0570-550661

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1517/>



昨年度の大会より（写真：フォート・キシモト）

JAAF
TOYAMA

一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

昨年10月に本協会の主催で初めて開催した秋季小学生陸上競技記録会は県内より700名以上の参加があり、普及活動の盛り上がりを感じる大会になった。種目は100mで4年生から6年生の男女別、4×100mリレーは男女別と混合の3つ。クロカンたすきリレーは男女別で行った。今年度は日清カップ全国大会も開催中止になり全国小学生たすきリレーも廃止となる中での大会になったのが好記録もたくさん生まれた。来年度も普及部を中心に、さらに大会に特徴も持たせた内容と運営に取り組んでいきたいと考えている。

強化の方では毎年冬場は県内外での合宿を重ねていく時期であるが、新型コロナウイルスの影響でなかなか実施できない。通いの練習会を増やす形で工夫しながらの強化している現場がある。もちろん高体連、中体連の練習会もしっかりコロナ対策をして行われている。2021年シーズンも早くコロナと向き合いながらの大会になると思うが是非、今年度のように大会を中止せずに、選手達にも協力してもらい本来の力を出し切れる大会作りを考えていきたい。

また本協会では大会時における新型コロナウイルス対策についても再度検討し、危険性からしっかり身を守るよう体制を作っていくと考えている。最後に2021年8月には北信越中学校陸上対抗選手権と北陸選手権の大会開催が決定している。是非、本協会の会員の方々の力をお借りして実のある大会としていきたい。

JAAF
ISHIKAWA

一般財団法人石川陸上競技協会

〒921-8833 野々市市藤平144-5
TEL.076-227-9410 FAX.076-227-9410
http://gold.jaic.org/ishikawa/

2020年度石川陸協はコロナ禍のなか万全な感染対策の徹底を行い、6月から延期大会も含め予定していた52競技会全てを無事に終了することができました。各関係者及び審判委員のみなさんご協力に感謝申し上げます。また強化対策も新しい生活様式から工夫を行い、中学生から一般選手までの幅広い種目別合同練習会や県内種別トップ選手のみ小規模な種目別強化練習会を取り組んできました。2020年度、全国大会で高校の部は2種目の優勝3種目の入賞、中学校の部では1種目の優勝2種目の入賞と少しずつではありますが、ここに向けて石川陸協では、強化普及部が中心となり「ジュニアタレント発掘・強化」を普及部（小学校）から中体連・高体連の連携協力のもと進めてきました。その成果が表れて女子走高跳で亀田実咲（鵬学園高校3年）選手が日本選手権で入賞（4位）、全国高等学校大会で優勝することができました。また、全国中学校大会で津田伊万（金石中学校3年）選手が200mで石川県中学生初となる日本一に輝くことができました。津田選手は、小学生のころから金沢市小学生陸上教室で素質を磨かれその才能を開花してきました。将来性の高い選手として成長年間計画をもとに普及部（小学校）を中心とした金沢市小学生陸上教室から中学校顧問との連携ジュニア育成強化があったからこそ現在の成績と思います。

石川県のこれからの課題はまだたくさんありますが、その中でもこの各種成功の取り組みを継続すること、連携協力を強化することに、石川県で見つかった素材を石川の地で、限られた条件範囲内で工夫を生かし更なる組織的な強化策を今後も取り組んでいきたいと考えています。（文責：強化部長 田村 智成）

JAAF
FUKUI

一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

一般財団法人福井陸上競技協会では、2020年12月より新たな取り組みを始めました。新たな事業は「9.98スポーツ教室」というものです。主旨は陸上競技をはじめとするスポーツを広く県民に楽しむための手段をレクチャーしていくというものです。コースは

◎小学校1年～3年親子コース

運動神経が大きく発達していく幼少期に、様々な運動を体験させ、運動能力を開発していくためのコースです。保護者の方々もできる範囲で一緒に運動を楽しんでいただきます。

◎マラソン普及コース

将来的に福井県で開催を計画している「福井県フルマラソン大会（全くの仮称）」に一人でも多くの県民が出場できるように、マラソンに取り組むための手段をレクチャーするコースです。

◎中学生・高校生基本コース

陸上競技部に所属していない中学生・高校生アスリートを対象にランニングの基本を短距離中心にレクチャーしていくコースです。

◎中学生・高校生専門種目コース

中学生・高校生の陸上競技部に所属しているアスリートを中心に短距離・中長距離・跳躍・障害・投擲それぞれの種目にわけ専門技術や体力トレーニングなどより専門的にレクチャーしていくコースです。

現在会員数は280名程度です。現在進行している、事業ですが各種目とも非常に充実した取り組みを実践しております。また、指導者が会社員、公務員、学生など多くの方々のご協力をいただいております。年末から大雪のため一時期予定が変更されたこともありましたが、一般ランナーの方々学生の方々のご協力で無理矢理除雪をしながら事業を展開しております。現在も、会員募集中です。詳細は一般財団法人福井陸上競技協会ホームページに掲載してあります。（文責：専務理事 本原靖之）

JAAF
NAGANO

一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038 長野市東和田632 長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044 FAX.020-4664-1771
http://nagano-rk.com/

2020年は、過去に経験したことが無い、苦しい年になりました。6月までの競技会自粛が開けた7月18日の大会を皮切りに、感染症対策に挑み、無観客から保護者の観戦導入までこぎ着けました。軒並み中止になった全国大会でしたが、特に中学駅伝については、全国大会は開催されませんでしたが、県中学駅伝は予定どおり実施しました。「駅伝長野」の次の世代を育てていくためにも途切れさせてはならないと感じ、中体連の主催から県陸協主催に切り替えての開催でした。例年男子は100校程が参加していましたが、密を避けるためトラックでの地区予選を経て、男女20チームに絞っての開催としました。全国への道が無いにもかかわらず、予選会には例年並みの学校の参加を得ました。まだまだ感染の予防対策は続きますが、パラオリの年、2021年に向けて前向きに活動していきたいと思っています。

また、9月に延期され開催された「第104回日本陸上競技選手権・混成競技」も感染対策の中、オリンピックの選考会では無くなったものの、例年並みの選手の出場を得て無事運営できました。選手からも開催へお礼を沢山いただきました。来年が改めてオリンピック選考会となるため、陸連及び次期開催県からの要望で2021年も長野での開催となりました。引き続き万全の感染対策をこころずる中で皆さまの参加をお待ちして居ります。

（文責：副理事長 葛城光一）

事務局からのお知らせ

◆◆JAAFファン投票2020～あなたが元気をもらった選手の名シーンは!?～結果発表!◆◆

2015年より実施しております日本陸連ファン投票。2020年は「あなたが元気をもらった選手の名シーンは!?」というテーマにてトップアスリート部門・中学高校部門に分けてインターネットでの投票をファンの皆さまから募集し、2122票のご応募をいただきました。

2020年のトップは、第104回日本陸上競技選手権大会・長距離種目にて日本記録を更新し、東京2020オリンピック日本代表に内定した相澤晃選手（旭化成）と、男子5000mにて日本高校記録を2度更新した石田洸介選手（東京農大二高・群馬）が、それぞれ選ばれました。

〈トップアスリート部門 TOP3〉

- 1位 相澤 晃（旭化成）
- 2位 新谷 仁美（積水化学）
- 3位 大迫 傑（Nike）



写真：フォート・キシモト

〈中学・高校部門 TOP3〉

- 1位 石田 洸介（東京農大二高・群馬）
- 2位 柳田 大輝（東京農大二高・群馬）
- 3位 杉田 晃大（奄海中・愛知）



写真：フォート・キシモト

〈アスレティックスアワード特設サイト〉

今回のファン投票では投票した選手の名シーンやトップアスリート部門の選手への質問も募集し、TOP10にランクインされた選手ご本人から質問へご回答いただきました。是非ご覧ください！

▼ <https://www.jaaf.or.jp/award/2020/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩（陸連会長）
- 友永 義治（陸連副会長）
- 八木 雅夫（陸連副会長）
- 尾縣 貢（陸連専務理事）
- 麻場 一徳（陸連強化委員長）
- 風間 明（陸連事務局長）
- 牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 石田 夢

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869